

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

15

VOL.



ヨシ刈りボランティアの仲間

ヨシ刈りシーズンが終わり、日ごとに暖かさが増しあちこちで桜の開花が始まっています。ヨシ原でも新たな新芽が顔を出し始め、少しずつ緑色に景色が変わってきています。

今シーズンの3回のヨシ刈りボランティアでは、多くの「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」の皆さんに、ヨシ原保全に貢献していただくことが出来ました。幸運にも冬の晴れ間が広がる絶好のヨシ刈り日和となった日、寒風吹きすさむ厳しい冬日での作業と、記憶に残る体験をしていただいたことでしょう。

今年もまた多くの生き物達の命を感じるヨシ原が蘇って来ます。

びわ湖を知る ■ 問題

滋賀県の河川で最も長い川は何川でしょうか？

- ①日野川
- ②安曇川
- ③愛知川
- ④野洲川

琵琶湖は沈水植物の宝庫

【水中で暮らす植物たち】

琵琶湖の湖岸に立つと、ヨシなどの抽水植物が目立ちますが、さらに沖の方の水中には、陸からは見えない植物が沢山生えています。それが、沈水植物と呼ばれる、主に水中で生活する植物群です。

琵琶湖の沈水植物でよく見られるのは、ササバモ、オオササエビモ、エビモ、センニンモなどのヒルムシロの仲間、ネジレモ、コウガイモ、クロモ、コカナダモ、オオカナダモなどのトチカガミの仲間、他にもイバラモ、マツモ、ホザキノフサモなど。皆さんが想像するより種類が多いのではないのでしょうか。

水中に生育していても、進化の上では一度は陸に上がった植物なので、花を咲かせます。花の咲き方は、花粉の運ばれ方と関係があります。花と言われて連想する、いわゆる「花びら」の付いている花は、昆虫によって花粉が運ばれる花なので、空気中に花を咲かせます。沈水植物の仲間でも、花だけは空気中に咲かせる種類もあり、それはやはり昆虫を当てにしているのです。

他の種類にも、もちろん花は見られます。ササバモなどの仲間は、水面から棒のような形の花穂を突き出し、そこに浪がぶつかって花粉が散り、水面を花粉が運ばれて他の花穂にたどりつきます。

完全に水中で花粉のやりとりをする種類もいて、たとえばイバラモは、雄と雌の株が別々で、雄株の花から放たれた花粉は、水中を流れて雌株の花に届きます。

このように、水中には色々な種類の植物が育っていて、それぞれ環境に適応した形で成長や繁殖を行っています。



ササバモ



オオササエビモ



エビモ



センニンモ



イバラモ



ネジレモ



クロモ

特集 2ページ

【なぜか沈水植物が嫌われ者に】

2000年頃から、琵琶湖南湖で水草の繁茂が問題になり始めました。この時から現在まで、問題になっているのは主に沈水植物です。沈水植物が繁茂すると、たとえば船の航行を妨げる、切れた植物が岸に流れ着いて悪臭を放つ、植物が繁茂している上にゴミが漂着して汚く見えるなどの問題が起きます。水が汚いから水草が繁る、という誤ったイメージを持たれてしまうこともあります。とはいえ、水草は一方向的に悪者にされるべきものでありません。

一般に、沈水植物は琵琶湖では水深8メートル程度の沿岸域に生育可能です。琵琶湖の南湖は平均水深が約4メートルなので、砂利採取などで深く掘り込まれた場所以外では、どこにでも生育可能です。かつての南湖には、おそらく湖の中心近くまで水草が生えていたと考えられます。しかし長い期間、水の濁りか何かの原因で南湖の一部にしか水草が生えていなかったことから、短期間に急激に増えて問題化したのです。

面積が増加したのは、1990年代後半に低水位が続き、岸辺に生えていた水草がより沖へと生育域を増やしたことが原因と考えられます。昔は、水草(特に沈水植物)を取って、肥料として田畑に混ぜていたこともあり、取り合いになることもあったのに、直接利用しなくなった現在では邪魔者扱いされ、嫌われる存在になってしまったのです。

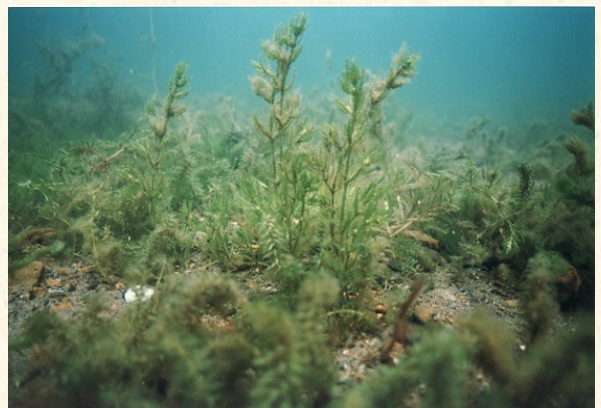
【湖の変化とどう向き合うか】

南湖の水草が問題になるのは、沈水植物だけでなく、沿岸域に多くの外来植物が入り込んでいることも原因の一つでしょう。ここ2、3年は、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ、アゾラ・クリスタータ(オオアカウキクサの仲間)などが岸辺や岸辺沿いのクリークに繁茂して駆除の対象になっています。しかし、沈水植物に限れば、1960年代にコカナダモ、1970年代にオオカナダモが見つかって以来、それほど種類組成は変わっていません。琵琶湖全体では、固有種のネジレモやサンネンモもまだ見られますし、それ以外の種類もあちこちに群落を作っています。琵琶湖は、日本で一番沈水植物の豊かな湖なのです。

沈水植物は、濁った水の中では生えることができません。光が届かないからです。沈水植物が生えるということは、水が透明できれいだということです。水中の栄養分を吸収してくれているということです。機会があれば、ぜひ一度箱メガネなどで水中をのぞいてみてください。緑の草原が広がっています。なかなか綺麗な風景だと思いますよ。



イバラモ潜水調査



沈水植物群落

ネットワーク 広場

近畿環境保全(株) 西村 篤さまより

地域の皆さんと共にエコ活動！

近畿環境保全(株)は、主に滋賀県と京都府において廃棄物の収集運搬と中間処理を行っています。廃棄物は貴重な資源でもあるため、お客様にリサイクルやゼロエミッションなどをご提案しています。当社は企業理念の一環として、地域の環境活動や社会貢献活動に取り組んでいます。

毎年数回、湖岸の清掃活動を行っています。また、2009年から滋賀県と三雲森林組合様と「森林作りパートナー協定」を結び、びわ湖の水源でもある三雲森林にて森づくり活動や支援事業を実施しています。



「びわ湖湖岸における清掃活動」



「湖南市三雲での森林づくり活動」

2010年より「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」のメンバーになり、毎回のヨシ刈りに楽しく参加させていただいています。



「ヨシ刈りボランティア活動」

資源ごみをより活用するため、リサイクルした収益の一部を「循環型社会創造研究会えこら」を通じ、びわ湖の総合保全活動に使われる「マザーレイク滋賀応援基金」へ寄付しています。

また、次の世代にリサイクルやごみ分別の大切さを伝えるために、小学校や子ども向けのイベントなどで環境学習と職業体験を実施しています。



「子ども向けの環境学習会と職業体験」

これからも地域の皆さんと共に環境活動を頑張っていきたいと思っています。

今シーズン ヨシ刈りの記録

多くの皆様に参加いただいた今シーズンのヨシ刈りボランティア。
延べ45社が参加され総勢330名余りの雄志がびわ湖環境保
全に貢献する事が出来ました。
沢山の思い出と、この活動の成果は確実にヨシ原が蘇ることに
繋がって行く事でしょう。 皆さんお疲れ様でした。

伊庭内湖のヨシ刈り 2012年12月8日



下物町のヨシ刈り 2013年1月26日



西の湖のヨシ刈り 2013年2月10日



みんなの リエデン

滋賀らしい
価値観を持つ商品やサービス、
集めました。 >>>



「リエデン」シリーズが滋賀県ブランド

「ココクール マザーレイク・セレクション2012」に選ばれました。

「ココクール マザーレイク・セレクション」とは・・・

滋賀ならではの資源や素材を活かし、心の豊かさや上質な暮らしぶりといった滋賀らしい価値観を持つ商品やサービスを選定し、特に湖国・滋賀のイメージをクールに伝える素敵なものを県内外へ広く発信するセレクションです。

※※ ココクールとは「湖国のクール(かっこいい)な商品や暮らしぶり」とお客様の出会いが生まれる、そんな「コンクール」になるようつけられた名前です。

評価ポイントは、「滋賀らしさが感じられるものであるか」「環境にやさしい商品、サービスであるか」「世間に配慮した企業活動を行っているか」「デザインやセンスが優れており、心の豊かさを感じられるか」「新しい価値を提案し、新たな市場を創造するものか」などを基準に滋賀と東京で審査が行われ、142件の応募から10件が選定されました。今後、その魅力を県内外へ発信されるということです。



平成19年上市以来、リエデンは工業製品から伝統の品と、ヨシの活用の可能性を広げてきました。地元滋賀の企業としてヨシを通じて琵琶湖の環境に貢献し、今後も新たな市場を創造するものとして認められたことを非常にうれしく思います。ご支援いただいたネットワークの皆様本当に有り難うございました。

今回の「ココクール」の認定を機に、もっと多くのお客様にリエデン商品の魅力を伝え、ネットワーク活動の仲間が広がるきっかけとなることを期待しています。



びわ湖を知る ■ 解答

④ 野洲川

鈴鹿山脈の御在所山を水源とし、延長65kmの河川で昔は「八洲川」と呼ばれていたそうです。